

1	Track 01:『もう無理。。。処女の限界……。』
左耳・通常	
(hnt_0001) ほむら「 ……で、どうだった？ 今月のラジオの感想……」	
正面（左横から顔を覗き込みながら）	
(hnt_0002) ほむら「 お姉ちゃん、ヘンなこと言ってなかったよね？ 聴いてて、処女臭い発言とかなかった？？？」	
左耳（マイクに顔は向けず横並び）	
(hnt_0003) ほむら「 ……もう、頼りないなあ。 いつ訊いても『わからない』ばかりじゃん。 こっちは真剣に悩んでるのに……」	
(hnt_0004) ほむら「 そりゃあ、お姉ちゃんも浅はかだったと思うよ？」	
(hnt_0005) ほむら「 たまたま出演したラジオ番組で、ぶっちゃけキャラを やってみたら、それがウケちゃったせいで、 こんなことになっちゃって……」	
(hnt_0006) ほむら「 リスナーさんからだけじゃなく、業界の関係者からも、 シモネタOKな声優だと思われちゃうしさ」	
(hnt_0007) ほむら「 ……男の人と付き合ったこともないのに、 まさか自分が、男性の性的な悩みを解決する番組を 任されるなんて……」	
正面（左横から顔を覗き込みながら）	
(hnt_0008) ほむら「 んもお、笑ってないで少しは慰めてよー。 こっそり、ラジオにお便り送ってきてるの、 知ってるんだからね？」	
左耳（マイクに顔は向けず横並び）	
(hnt_0009) ほむら「 ……お姉ちゃんも、がんばって彼氏作った方がいいのかな」	
左耳・通常	
(hnt_0010) ほむら「 自分でも不思議なんだよね。 弟とだったら、こうやって普通に話せるのに、 他の男の人だと妙に身構えちゃって……」	
(hnt_0011) ほむら「 もちろん、仕事で会う人たちとは話してるよ？ でもそういうのって、ビジネスモードのスイッチが入ってるから、そもそも異性として見てないしね……」	

左耳（マイクに顔は向けず横並び）	
（ hmt_0012 ）ほむら「……大体さー。エロゲー声優してるのに、 中の人はバージンっていうの、どう思う?。」	
（ hmt_0013 ）ほむら「自分でも、どうかと思うんだよね。 ゲームの台本を読んでも、いまいち感情移入できない というか……」	
左耳（顔を横に背けたり等動かしながら、恥じらい強めで）	
（ hmt_0014 ）ほむら「演じてる女の子が、主人公の、その……おちんちんを見て、 かわいって言うったり、おっきいのが好きとか、 奥に当たって気持ちいいとか、経験したことないから、 ずっと、はてなマークだし……」	
（ hmt_0015 ）ほむら「……セックスって、そんなに気持ちいいのかな」	
正面（左横から顔を覗き込みながら）	
（ hmt_0016 ）ほむら「そっちは……したことあるの? 女の子と……エッチなこと……今までカノジヨができたって 話、聴いたことないけど……」	
（ hmt_0017 ）ほむら「もし経験がないんだったら、あたしたち姉弟って、 ヤバくない? 今の子たちって、割と学生の頃から そういう経験しちゃうんでしょ?。」	
左耳（マイクに顔は向けず横並び）	
（ hmt_0018 ）ほむら「あーほんと、どうしよ……この先、ずっとああいう、 シモネタ大好き声優みたいなノリでいくの、 無理そうなんだけど……」	
（ hmt_0019 ）ほむら「……今さら、バージンでしたってカミングアウトするのも 恥ずかしいしさ……」	
左耳・通常	
（ hmt_0020 ）ほむら「ねえ、どうしたらいいと思う? お姉ちゃんも、誰かと…… エッチしてみた方がいいのかな……」	
左耳（マイクに顔は向けず横並び）	
（ hmt_0021 ）ほむら「でも、いくら仕事のためだからって、好きでもない人と、 そういうことするの嫌だし……うーん、悩むう……」	

左耳・近め	<p>（hmt_0022）ほむら「……………あのさあ。 急にこんなこと言うの、アレだと思うけど……」</p> <p>（hmt_0023）ほむら「少しだけ……おちんちん、見せてほしいって言ったら、怒る?。」</p> <p>※SE…ガサツ！（驚いて跳ねる）</p>
正面・遠め	<p>（hmt_0024）ほむら「……ええっ、そんなにびつくりする？ だ、大丈夫だよ？ いきなり襲いかかったりしないし」</p> <p>（hmt_0025）ほむら「こんなこと頼めるの、他にいないから……一応、ダメ元で訊いてみようかなって思って……」</p> <p>うつむきながら</p>
（hmt_0026）ほむら「……そうだよな。いくらお姉ちゃんでもこんなこと言うの 気持ち悪いよね」	
（hmt_0027）ほむら「おちんちんを見たのって、 子供の頃にお風呂が一緒だった時ぐらいだから…… 親指ぐらいの小さいサイズしか記憶にないの」	
顔を上げる	
（hmt_0028）ほむら「でも、今は大人になったわけだし……あの頃よりは、 大きくなっていたり……するんでしょ……?。」	
うつむきながら	
（hmt_0029）ほむら「はあ……ゲームだったら、よくあるシーンなんだけどなあ」	
右耳に近付きながら	
（hmt_0030）ほむら「こんな風にお姉ちゃんが弟くんに迫ってえ……」	
右耳・囁き	
（hmt_0031）ほむら「……ねえ、おちんちん見せてくれる?。」	
（hmt_0032）ほむら「お姉ちゃん、おっきくなったオトナのおちんちん、 見てみたいなあ……」	

	正面・通常（右耳から離れながら） （ hmt_0033 ） ほむら「こんな感じで誘惑しちゃうの。でも、さすがにゲームとは違うよね。姉弟でそんな裸を見せ合うなんて……」 ※SE…ガサツ！（驚いて跳ねる） （ hmt_0034 ） ほむら「……え？　なんでまた驚いたの？ お姉ちゃん、何かおかしいこと言った？」 （ hmt_0035 ） ほむら「……ああ、裸を見せ合うっていうの？ だって、お姉ちゃんだけおちんちんを見せてもらうの、 ずるくない？ 片方だけ、恥ずかしい思いをするなんて……さ」 （ hmt_0036 ） ほむら「だから……もし、お姉ちゃんの裸も見たいって言うなら…… もちろん、すごい恥ずかしいけど……うん……」 正面・近め（近付きながら） （ hmt_0037 ） ほむら「……やっぱり……ダメ？ お姉ちゃんには、おちんちん見せたくない……？」 （ hmt_0038 ） ほむら「ふふっ。ゲームみたいに、お姉ちゃんにも弟を誘惑できる ような勇気があればよかったのにな……」 正面・遠め（離れながら） （ hmt_0039 ） ほむら「ごめんね、ヘンなこと言って。 いくら昔から姉弟の仲がよかったからって、嫌だったよね」 正面・遠め（「よしっ」のあと、マイクに背を向けながら） （ hmt_0040 ） ほむら「……よしっ。お姉ちゃん、明日はゲームの収録があるから、 台本のチェックをしてくるね。話を聴いてくれてありがと」 ※SE…立ち去る足音 ※SE…ドア開閉 ※トラック2へ
--	---